

オーストラリアで得た経験

藍住中学校 箕谷 誠太

僕がこの海外派遣事業に参加しようと思った動機は、今まで海外に行ったり、実際に英語で会話する機会がほとんどなかったのもので、オーストラリアの環境や習慣、本場の英語に触れられることを想像し、「楽しそう」と思ったからです。

初めての長時間の飛行機は、ドキドキしてあまり眠ることができませんでした。早朝、シドニーに到着してオペラハウスなどの有名な観光地やきれいな町並みを見たときは、本当に来たんだなと実感がわいて感動しました。

夕方には迎えに来てくれたホストファミリーと会いました。はじめは少し緊張しましたが、明るくてとても優しい家族で、温かく迎えてもらえて安心しました。家に着くとお母さんが僕の苦手な事や食べ物を確認してくれたのがとてもうれしかったです。お母さんはいろいろな食事を用意してくれましたが、そのなかでもトムヤムスープという料理がとてもおいしかったです。また毎日の夕食前、その日あった事に感謝をするお祈りをしました。普段と違う習慣を体験することができました。休日には家族みんなで山に行きました。山道をバイクで走ったのは少し怖かったけど爽快で、みんなで集めた木の枝でたき火をしたり、自然を満きつすることができました。そして、お父さんが焼いてくれたソーセージや野菜の味は最高でした。



僕は滞在中、英語が上手く話せなくても無理せず自分の知っている単語で会話したり、分からない事は正直に分からないと言ったり、感謝やおわびの気持ちをはっきり伝えるように努めました。そうすることで家族みんなと良いコミュニケーションが取れたと思います。

学校にはスクールバスを利用して登校しました。現地の生徒とは一緒にスポーツやダンスをして親睦を深めることができました。文化交流会では、日本で準備していった劇をしたり、阿波踊りを紹介してみんなで踊ったりして、とても喜んでもらえました。また、オーストラリアの学校には、「モーニングティータイム」というお茶とお菓子をもち寄る休み時間がありました。そこで「ベジマイト」というオーストラリア特有のジャムをバディというお世話役の生徒から教えてもらいました。独特の匂いと味で他の日本の生徒は苦手そうだったけど、僕はとてもおいしくいただきました。その様子にバディ達は大喜びで、ハイタッチをして盛り上がってくれたのはとても良い思い出です。交流の証としてバディのザビエル君から瓶に残ったベジマイトを進呈されました。

遠足では動物園とビーチに行きました。オーストラリアの象徴であるコアラとカンガルーがたくさんいて、触れあうことができ楽しかったです。

僕はこの派遣事業に参加して、オーストラリアの自然の広大さと日常の生活に触れ、素晴らしい体験をしました。英語は思い切って話してみると意外と分かってもらえて少し自信ができました。また、10日間家族と離れて海外で生活することで自分に責任を持って行動することなど、たくさんの貴重な経験ができました。この経験を生かしてこれからもいろいろなことに打ち込んでいきたいです。

